

岡山市水道局 大成機工が共同開発

フランジ補強に金具 離脱阻止性能はA級



減圧弁フランジ接合部に採用

新水道ビジョンでこれからの水道に強靱な管路づくりを求めている中、本管と減圧弁、ポンプなどのフランジ接合部を耐震補強するため、岡山市水道局と大成機工は「フランジサポート」を共同開発。この4月、市内の口径200^{mm}減圧弁のフランジ接合部にこの

フランジサポートを採用した。フランジ接合部の離脱阻止性能は、これでA級(3DkN)にアップ。耐震形ダクタイル鉄管と同等の離脱阻止性能が期待できるため、管路の耐震化、安全性が大きく前進するという。水道事業はざっと125年余の歴史があり、管路を逐次、延伸してきたため布設年次、接合方法などがまちまち。しかし取水から給水まで新旧管路が一連で水を送るため、1カ所の弱点やトラブルが下流側全域の断水

リスクを伴っている。管路の耐震化が進められている中で、フランジ部の補強対策が見過ごされていた。

新開発のフランジサポートは既設フランジ部を金具とボルトで補強するだけのシンプルな施工。コンパクトで、専用工具類も不要。岡山市での取付現場では減圧弁ピット内の200^{mm}減圧弁の上流側2カ所のフランジに1時間ほどでフランジサポートを取り付けた。同市ではフランジサポートを取付けながら、既存のフランジボルトの交換も行ったという。

岡山市水道局矢野光信 主査は「フランジサポートを設置することでフランジ部の安定感が増した。維持管理に携わる職員にとってその安心感は大い」と、その意義を語った。